

警告

自転車は、製品によって取扱いが多少異なることがあります。したがって、ブレーキレバーへの入力や自転車の操作特性などを含め、個々の自転車のブレーキシステムの適切な操作を充分理解し慣れるようにしてください。ブレーキシステムの操作が適切でないと自転車のコントロールを失い、事故のもとになり、また大怪我を招くとも限りません。適切な操作については、自転車専門店にご相談いただき、また、自転車の取扱い説明書もよくお読みください。ご自分の自転車にお乗りになって、ブレーキ操作などを練習していただくことも大切です。

取扱い説明書

SI-4R31B

SG-4R31
BR-IM31-R
CJ-7S40

インター4ハブ
インターMブレーキ
カセットジョイント

ご使用になる前に、この取扱い説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

SHIMANO
NEXUS

- インター4用シフティングレバーに添付されている取扱い説明書も合わせてよくお読みください。
- CJ-7S40 カセットジョイントには、16T~22Tまでのスプロケットをご使用ください。

注意

- シマノインターMブレーキシステムは、マウンテンバイクには使用できません。もし使用されますと、ハードなブレーキ操作によりブレーキ内部が高温になりブレーキの効きが弱くなったり、内部のグリスがなくなりブレーキの効きが急に強くなる等の異常が発生する場合があります。
- 使用中、次のことが発生した場合は、即刻使用を中止し、販売店で点検・修理をしてください。
 - 1) ブレーキをかけたとき、音鳴りがした場合
 - 2) ブレーキの効きが異常に強すぎる場合
 - 3) ブレーキの効きが異常に弱すぎる場合
 1)と2)の場合は、ブレーキグリスの不足が考えられますので、販売店でローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
- シマノインターMブレーキの性能を最大限に発揮させるため、必ずシマノブレーキケーブルとブレーキレバーをセットでご使用ください。
(ブレーキレバーを握ったときのインナーケーブルの引き代は、14.5mm以上必要です。14.5mm未満の場合は、ブレーキ性能が悪くなり、ブレーキが効かなくなることがあります。)
- ブレーキアームが、アームクリップでチェーンステアにしっかりと固定されていることを確認してください。取付け不良は、ブレーキ性能が悪くなります。
- ブレーキをひんぱんに使用した場合、ドラム部が高温になる場合があります。走行後しばらく(30分位)は、ドラム部に手をふれないよう注意してください。
- ブレーキケーブルがさびると、ブレーキの効が悪くなります。効が悪くなった時は、新しいシマノ純正ブレーキケーブルと交換し、再度ブレーキの効きを確認してください。
- BR-IM31-Rの、ブレーキユニットは分解できません。分解するとトラブルや故障の原因になります。

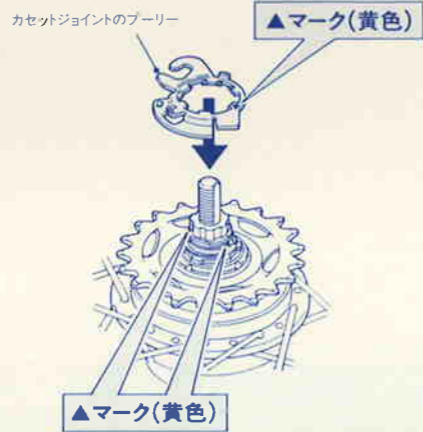


使用上の注意

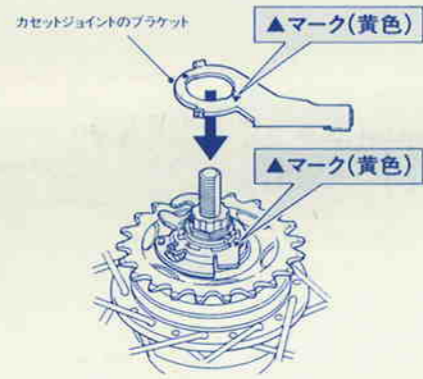
- インターMブレーキは、従来のバンドブレーキと異なり、ドラム内部にグリスが封入されているため、タイヤ回転がわずかに重たくなっています。(特に冬期)
- 取扱い方法または調整方法について疑問のある方は、購入された販売店にご相談ください。

カセットジョイントのハブへの取付け

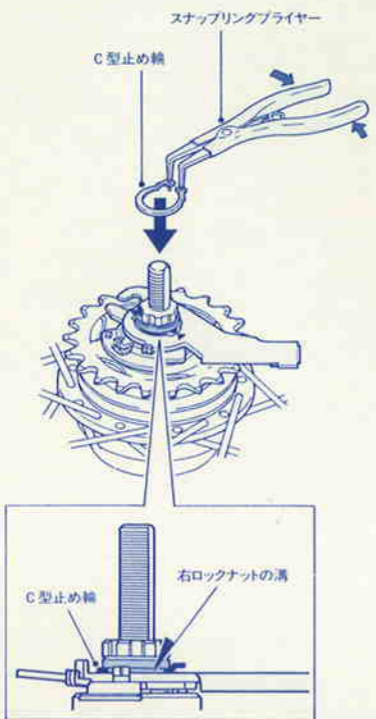
1. カセットジョイントのプリーアの▲マーク(黄色)を、ハブ本体右側の▲マーク(黄色)に合わせてセットします。



2. カセットジョイントのブラケットの▲マーク(黄色)を、プリーアの▲マーク(黄色)に合わせてセットします。

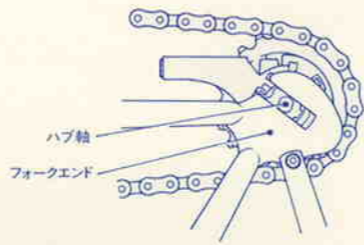


3. C型止め輪で、カセットジョイントをハブ本体に固定します。このとき、C型止め輪を右ロックナットの溝に確実にセットしてください。

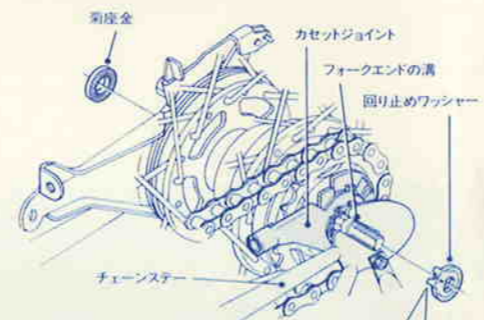


ハブのフレームへの取付け

1. チェーンをスプロケットに掛け、ハブ軸をフォークエンドにセットします。



2. ハブ軸の右側に、回り止めワッシャーをセットします。このとき、フォークエンドの溝に、回り止めワッシャーの突起部が入るようにカセットジョイントを回し、チェーンステアとほぼ平行に取付けます。なお、ハブ軸の左側には、回り止めの突起部のない菊座金をセットします。



- 回り止めワッシャーには、逆爪用と正爪用の2種類があります。フォークエンドにあったものをご使用ください。

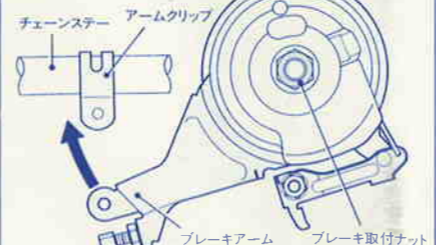
フォークエンド	回り止めワッシャー		
	刻印	カラー	サイズ
逆爪	1	ブラック	20° ≤ θ ≤ 38°
正爪	2	ゴールド	θ = 0°



- 突起部をフォークエンド側にセットします。
- 突起部をフォークエンドの溝に確実に入るように、ハブ軸の前側または後側に入れます。

3. インターMブレーキのブレーキアームを、アームクリップでチェーンステアに取付け、クリップボルトとクリップナットを軽く締めて仮止めします。その後、ブレーキ取付ナットを締めます。

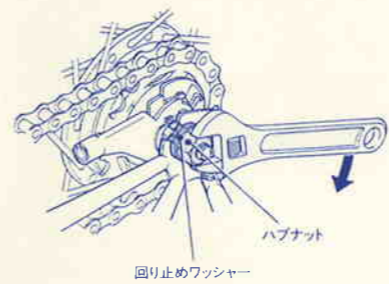
ご注意：
図のようにブレーキアームの位置がずれて、チェーンステアに仮止めできないときは、ブレーキ取付ナットを一旦ゆるめてからブレーキアームを回し、チェーンステアに仮止めします。その後、ブレーキ取付ナットを締めます。



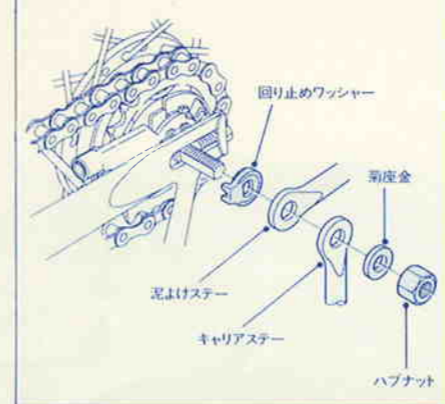
締付トルク：
20 ~ 25 Nm (200 ~ 250 kgfcm)

4. チェーンのたるみをとリ、車輪をフレームにハブナットで確実に固定します。

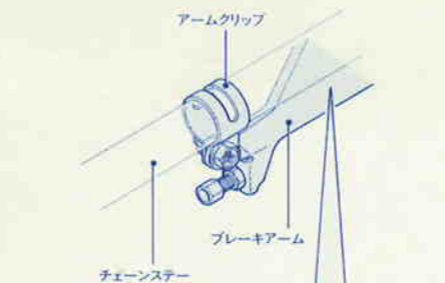
締付トルク：
30 ~ 45 Nm (300 ~ 450 kgfcm)



ご注意：
ハブ軸に泥よけステア等を取付けるときは、下図の順にセットします。



5. インターMブレーキのブレーキアームを、チェーンステアにアームクリップで確実に固定します。

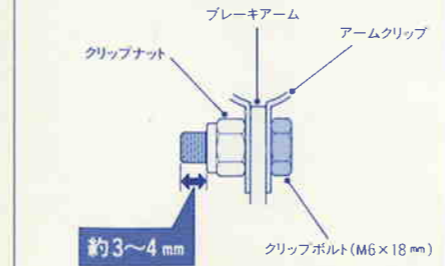


ブレーキアームに無理な力を加えると、車輪の回転が重くなります。取付けのときは、充分注意してください。

ご注意：
●アームクリップを取付けるときは、クリップナットを10mmスプナで固定し、クリップボルトを確実に締付けてください。

締付トルク：
2 ~ 3 Nm (20 ~ 30 kgfcm)

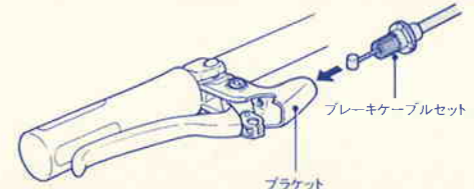
- アームクリップを取付けた後、クリップボルトがクリップナットの端面から約3~4mm出ていることを確認してください。



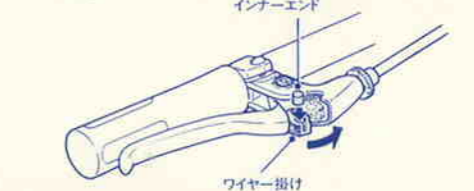
約3~4mm
クリップボルト(M6×18mm)

ブレーキケーブルの取付け

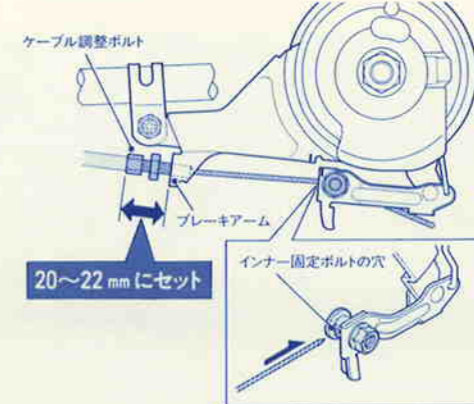
1. ブレーキレバーを握り、ブレーキケーブルセットをブラケットの穴に通します。



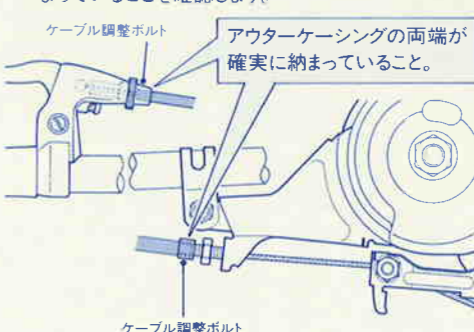
2. 次にインナーエンドをワイヤー掛け穴に合わせ、図のようにワイヤー掛けを回してインナーエンドをセットします。



3. ケーブル調整ボルトをブレーキアームの端面から20~22mmの位置にセットし、インナーケーブルをケーブル調整ボルトの穴から、インナー固定ボルトの穴に通します。

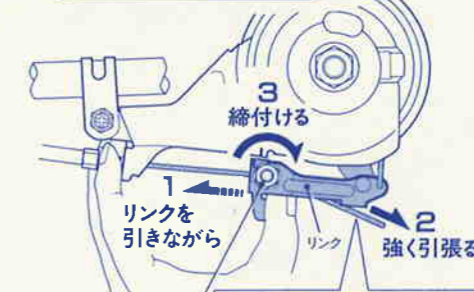


4. アウターケーシングの両端が、ブレーキレバー側とブレーキアーム側のケーブル調整ボルトに確実に納まっていることを確認します。



5. リンクを当りまで引き、インナーケーブルをいっぱい引張った状態で、インナー固定ナットを締めます。

締付トルク：
6 ~ 8 Nm (60 ~ 80 kgfcm)



ご注意：
インナーケーブルは、リンクの下を通るようにセットしてください。

ブレーキケーブルの調整方法

1. ケーブルが張りすぎで、車輪の回転が重くなっていることを確認したあと、ブレーキレバーをグリップに付くまで、約10回ほど握り、ケーブルをなじませます。

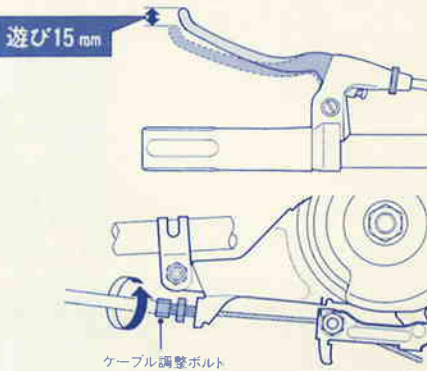
ご注意：
ケーブルがなじんでいないと、短期間で再度ブレーキの調整が必要になります。



2. ブレーキケーブルの調整方法には、下記のように再調整時の場合と、ブレーキユニットが新品時の場合の調整方法があります。

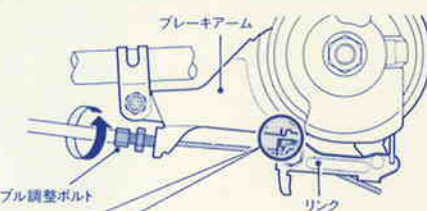
再調整時の場合

ケーブル調整ボルトを回して、ブレーキレバーの遊びが15mmになるように調整します。
(ブレーキレバーの遊びとは、レバーを操作していない状態から、レバーを少し引いていくと、急に重くなる所までの引き代のことです。)



ブレーキユニットが新品時の場合

ケーブル調整ボルトを回して、ブレーキアームのセットマークと、リンクのセットマークを合わせます。



ご注意：
このセットマークは、ブレーキユニットが新品時の場合の調整目安であり、ブレーキ使用後の再調整時の場合にはご利用できません。

3. ブレーキレバーを握り、ブレーキの効きを確認したあと、ケーブル調整ナットでケーブル調整ボルトを固定します。

締付トルク：
1 ~ 2 Nm (10 ~ 20 kgfcm)

この取扱い説明書は、ご購入された自転車に装着されているシマノ製自転車部品の取扱い方法を説明しています。ご購入された自転車及びシマノ製自転車部品以外に関するご質問は、ご購入先または自転車製造元へのお問い合わせをおすすめいたします。

製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。

この取扱い説明書は再生紙を使用しています。